



Title	月刊DRF 第28号
Author(s)	デジタルリポジトリ連合
Issue Date	2012-05-01
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/73543
Type	periodical
Note	事務局: 北海道大学附属図書館; http://drf.lib.hokudai.ac.jp/ で公開したもの
File Information	DRFmonthly_28.pdf



[Instructions for use](#)

JAIRO Cloud 始動！

日本における機関リポジトリは、千葉大学、早稲田大学を嚆矢として、その後国立情報学研究所の学術機関リポジトリ構築連携支援事業を背景に、単独機関による構築が進められてきました。一方で、1台のサーバを複数機関がシェアする共同リポジトリの実践も増え、機関の規模や設置母体の別を超えた全国的な広がりを見せています。そして、ついに去る4月1日。国内の機関リポジトリのさらなる普及を目的とした新たなリポジトリサービスが始動しました。—JAIRO Cloud。国立情報学研究所(NII)開発のリポジトリシステムWEKOをベースとした、この待望のクラウドサービスについてNII 塩崎氏に取材しました。

JAIRO Cloudって何？

国立情報学研究所 (NII) は、平成24年度より JAIRO Cloud (ジャイロクラウド：共用リポジトリサービス) を運用開始しました。

大学等の教育研究成果を発信する機関リポジトリの構築を推進し、オープンアクセスの進展を図るため、独自の構築・運用が難しい機関に対し、NII開発のソフトウェア「WEKO」をベースに構築した機関リポジトリのシステム環境を提供するクラウドサービスです。JAIRO Cloudを利用することで、システムの心配は不要になり、コンテンツ登録に集中できます。

申請は随時受付中ですが、当面は、機関リポジトリを新たに構築する機関のみを対象とします。

2012年4月24日現在で、69機関から申請をいただいています。うち、10機関が試験又は本公開中です。詳細は、JAIRO Cloud コミュニティサイトを参照ください。システムに関するお知らせ、操作ガイドなど各種情報を提供していきます！！



<https://community.repo.nii.ac.jp/>

WEKO って何？

JAIRO Cloudでは、WEKO (ウェコ：スワヒリ語で「保管庫」の意味) を活用して機関リポジトリのシステム環境を提供します。

WEKOは、NII開発のネットコモンズ (HPを簡単に作成するソフト) のアドオンの一つとして動作します。ブラウザ上で、コンテンツ登録作業から、画面のレイアウト変更まで、設定ファイル等を直接編集することなく、簡単に操作ができます。

基本機能として次のことが可能です：

- 1) 一般ユーザ
 - ・メタデータ／全文検索
 - ・本文のダウンロード／メタデータのエクスポート 他
- 2) 登録ユーザ (教員等)
 - ・セルフアーカイブ (コンテンツ登録) 他
- 3) 管理者 (図書館員等)
 - ・登録環境の設定 (ディレクトリ編集、公開制御等)
 - ・個別／一括登録、査読／承認
 - ・アカウント管理、統計管理、各種表示設定 他

今後も、マルチメディアコンテンツへの対応や、搭載コンテンツから業績リストの出力など、より広く研究資源を再利用するためのリポジトリシステムとして、機能を拡充していく予定です。ご期待ください。

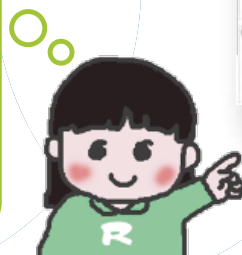
お問合せ先：国立情報学研究所 学術基盤推進部
学術コンテンツ課機関リポジトリ担当
E-mail: co_ir@nii.ac.jp

りほこの WEKO 体験

WEKOを体験できるサイトがあるって聞いて、訪ねてみたよ！
デモサイトでは、コンテンツの閲覧や登録 (ユーザ登録が必要) が体験できるの。登録では、CiNiiやPubMedのAPIを利用したメタデータの自動入力ができたり、クリエイティブコモンズライセンスを表示できたりと、あったらうれしい便利な機能が随所に見られてナイスな感じ。最頻度利用コンテンツに加えて「最もコンテンツを作成したユーザ」や「最も検索されたキーワード」などを紹介するランキング表示機能も魅力だよな。

デモサイトでできることは、閲覧と個別登録に限られるけど、管理者としてのWEKO体験を希望する人のために、サイトではWindowsPCに手軽にサーバ環境を構築できるWEKOパッケージを用意しているんだって。次はこれにトライしてみなきゃ！

<http://weko.at.nii.ac.jp/>



● JAIRO CloudのQ&A

Q. JAIRO Cloudに参加したら、URLはどうなるの？

A. 原則、「<https://○○○.repo.nii.ac.jp>」の形式となります。
(○○○内に任意の文字列を設定できます。)

Q. 紀要を電子ジャーナル風に表示することは可能？

A. 可能です。例：神戸松蔭女子学院大学
<https://shoin.repo.nii.ac.jp/>

Q. 取得できるログ、統計はどんな内容？

A. アクセス数、ダウンロード数など標準的な統計が管理画面から確認できます。なお、ログ自体の提供については、現状、想定していません。

Q. OAIster等サービスプロバイダへのoai-dcによるデータ提供は可能？

A. はい、oai-dcでの出力はデフォルトで可能です。

Q. パーマリンクって何？ ハンドルシステムと違うの？

A. 一意のURLをNII側で自動的に付与します。ハンドルシステムとの連携はありません。

Q. 操作について、詳しいマニュアルはある？

A. 各種マニュアル類については、コミュニティサイトに掲載しています。また、WEKO画面上でも、電球マークをクリックしていただくと、ヘルプ画面を参照可能です。

Q. JAIRO Cloud事業の目的、NIIが期待される効果は？

A. 機関リポジトリの構築を推進し、オープンアクセスの進展を図ります！

Q. コンテンツ毎に学内限定公開の設定は可能？

A. 公開・非公開のステータス管理は、コンテンツ単位で可能です。コンテンツ単位でのIP制御（学内のみアクセス可）については、応相談です。

Q. 広報資料を入れるなど、機関リポジトリとしてでない使い方もOKですか？

A. 利用機関の運用ポリシー次第です。ただし、広報資料のみしか公開されていない場合等については、ご相談させていただく場合があります。

Q. 当面無料ということですが、有料化の予定はある？

A. 将来的に有料化することを想定していますが、詳細は未定です。

● JAIRO Cloud参加機関紹介

● 神戸松蔭女子学院大学 学術機関リポジトリ

KARASHI-DANE

Knowledge and Academic Resource Archive of the Kobe Shoin
Women's University Institutional Data Network

URL <https://shoin.repo.nii.ac.jp/>

小さな一歩が大きな一歩に！

2012年4月よりJAIRO Cloudにて機関リポジトリを公開いたしました。ハーベスティングがまだですので、一人前のリポジトリとは言えませんし、貧弱なコンテンツですが、とりあえず登録する為の箱を手にする事ができたというだけでも、本学のように小さな機関にとっては大きな一歩です。JAIRO Cloud事業がなければこの時期には実現していなかったと思います。作業開始に当たり図書館スタッフ全員に手順の説明をし、「やってみよう！」というスタッフを募り、4名の体制で作業を行っています。実際の作業に携わっていないスタッフも各自可能な範囲で積極的に協力しあう体制が整ってきています。従来の仕事と並行してリポジトリの作業を行うことにより「全員で頑張らないとやっていけない！」という意識が強くなり図書館スタッフ内の結束力が固まりました。この力はリポジトリ事業のみならず、すべての業務を推進していく上で大きな力になると信じています。

リポジトリ担当者 (写真右より)
加川みどり
西川由里子
森永由佳子
高木美穂



● 聖心女子大学 学術リポジトリ

University of the Sacred Heart Academic Repository

URL <https://u-sacred-heart.repo.nii.ac.jp/>

聖心女子大学学術リポジトリは、雀のお宿の「小さな葛籠(つつら)」！

本学図書館では、平成22年度より機関リポジトリの検討を開始しました。最初は、NIIが開催するCSI委託事業報告会や研修等に参加し、DSpaceとかハーベストとか初めて聞く言葉に戸惑いながらも、DRFを中心とした先行大学のスタッフの方々による熱心な報告、御指導を受けて着々と準備を進めてまいりました。折しも、NIIの共用リポジトリサービス立ち上げにより、本学もそのサービスを受容させていただくことになりました。最初にリポジトリに登録するのは「聖心女子大学論叢」です。只今、初めてのメタデータを登録中です。JAIRO Cloudで提供される環境は、図書館スタッフにも好評です。自学の教育研究成果物を社会に向けて発信し、将来にわたって保存する学術リポジトリの実現は、大学の学術情報基盤としての図書館にとって大きな前進です。聖心女子大学学術リポジトリをどうぞ宜しく！

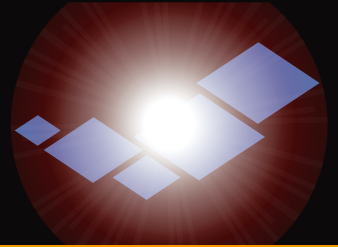
リポジトリ担当者 (写真右より)
塩谷百合
北村早紀子





DRF 新体制

平成 24 年度から、DRF の体制に変更がありましたのでお知らせします。運営委員の改選と、ワーキンググループの再編を行いました。



● 新運営委員紹介

4月に運営委員の定期改選を行い、新たに2名の運営委員の方が加わりました。継続の委員と合わせ、皆様よろしくお願いたします。

この4月から DRF 運営委員に加わるようになりました。リポジトリの諸活動が、教育や研究、地域・社会連携といった大学の果たすべき役割と同列に認識されるようになることを将来の目標としつつ、各 WG のありようや、参加館とそこで活躍する担当の方々の動きなどを見つめていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いたします。

井上修（東北大学附属図書館事務部長）

このたび、DRF 運営委員という大役に、能力・経験を顧みず就任しました。DRF は、リポジトリにかかわる人たちの最も大きなコミュニティですが、私立大学関係者の関与がその参加数に比して十分ではないという感覚が以前からありました。それを少しでも是正していきたいというのが就任にあたって考えたことです。

私は、リポジトリ構築活動は、学内ではリエゾン活動であり、学外に向かっては、機関と機関をつなぐ機縁をつくる活動の一つだと理解しています。私自身、この数年間、DRF の活動にかかわる中で多くの方と知り合うことができました。微力ながら、リポジトリ関係者の交流の輪が広がり、元気になるよう、力を尽くしたいと考えています。よろしくお願いたします。



鈴木正紀（文教大学越谷図書館課長補佐）

DRF 運営委員会

新田孝彦
(委員長・北海道大学附属図書館長)

杉田茂樹
(委員・小樽商科大学学術情報課長)

井上修
(委員・東北大学附属図書館事務部長)

内島秀樹
(委員・筑波大学附属図書館情報管理課長)

島文字
(委員・千葉大学附属図書館利用支援企画課長)

鈴木正紀
(委員・文教大学越谷図書館課長補佐)

甲斐重武
(委員・広島大学図書館副館長)

山本和雄
(事務局・北海道大学附属図書館学術システム課長)

● 平成 24 年度活動計画 / 新主査・副査紹介

企画WG

今年度から編成が変わり、企画 WG は、集会、国際連携、技術サポート、広報の各 WG の代表者で構成されることとなりました。これにより、各 WG の力を合わせてバランスよく、ことにあたっていききたいと思ひます。今年の DRF はイベント盛りだくさんです。企画 WG では、中堅担当者研修のリニューアル、新装復活の地域ワークショップの企画などに着手しています。こんなことで困っている、これについて他のリポジトリはどうやっているか聞きたい、こんなことを始めたので皆に紹介したい等、小さなことから大きなことまで是非是非お知らせください！

DRF の主役は、参加機関の皆さまです。全 WG 協調の上、皆さまの機関リポジトリの発展のお手伝いをしていきたいです。



主査・杉田茂樹
(小樽商科大学)

オープンアクセス運動の動きはつくづく目まぐるしい！
DRF がそのアンテナになれるようがんばります。がんばりましょー。

機関リポジトリはまだこれからも発展し、そのための新たな視点が
たくさんあるはず！と思っています。一緒に楽しんで進んでいきましょう！



副査・内島秀樹（筑波大学）

DRF は世代交代が進みつつあるので、側面（背面？）から若い皆さんのお手伝いをしたいと思ひます。よろしくお願いたします。

運営委員会

企画 WG

集会
WG

国際
連携
WG

技術
サポート
WG

広報
WG



副査・鈴木雅子
(旭川医科大学)



主査：濱知美 (広島大学)

今年は DRF の活動を通じてどんな出会いが訪れるのか楽しみです。(意外に!?) 正式メンバーとしては新米ですので、どうぞよろしくお願いいたします!



副査：守本瞬 (金沢大学)

なんだかんだで DRF に関わるのも 4 年目となりました。人のつながりを作る DRF。私も DRF に参加することで沢山のひとと出会えました。あなたも参加してみませんか?

主査：土出郁子 (大阪大学)

図書館員は世界のどこにいても、関係のある人と図書館の話ができるでしょう。オープンアクセスやリポジトリのことも気軽に「あなたのところはどしてる?」と聞けるお隣さんが世界中にいる、あなたがそう思えるような関係をつくりたいです。



副査：西菌由依 (鹿児島大学)

海外の動きで気になることやもっと詳しく知りたいこと、ありますよね。でも大変、ではなく、面白い、と感じてもらえるための橋渡し役ができたと思っています。



集会WG

DRF では、今年も以下のようなイベント・研修を予定しています。集会 WG は、このイベント・研修の実行部隊です。裏方としてあちこちに出発しますので、皆様、ご参加・協力のほどよろしくお願いいたします。

今年度の主な予定

- ・機関リポジトリ新任担当者研修 3 回 (NII と共催予定)
 - 9 月 岡山大学
 - 10 月 18 日 (木)~19 日 (金) NII (予定)
 - その他、東日本でもう 1 回開催します。
- ・機関リポジトリ中堅担当者研修 1 回 (NII と共催予定)
 - 場所・時期未定。
- ・rliasion ワークショップ
 - 9 月 11 日 (火) 東京歯科大学
- ・地域ワークショップ
 - 9 月 21 日 (金) 神戸松蔭女子学院大学
 - その他、福島、香川をはじめ各地で 5 回ほど計画中
- ・第 9 回 DRF ワークショップ (DRF9)
 - 11 月 パシフィコ横浜
 - 図書館総合展会期中 (20 日 (火)~22 日 (木)) に開催します。
- ・その他、SCPJ, ROAT, 著者識別子など、テーマ別、分野別、技術系のワークショップを計画中です。

国際連携 WG

今年度の主な予定

1. 海外情報のリアルタイム受容と国内への普及、同時に国内状況の海外への発信 (今年度も翻訳部隊ががんばります。海外でのオープンアクセスやリポジトリの状況を折々紹介し、同時に国内の状況を海外に発信していきます。)
2. 関連機関との国際連携
 - 3 月には英国 RSP(Repositories Support Project)との協力関係を結びました。今後、人材育成や研修をテーマに様々な交流を行う予定です。ご期待ください。
3. その他、今年もやってくるオープンアクセスウィーク・従来に引き続き COAR(オープンアクセスリポジトリ連盟)の参加組織としての活動など、今年度も目白押しでもりもりやっています。

技術 WG は、リポジトリの技術に関する情報を担当者の身近にすること、各機関のリポジトリの技術に関する共通問題を解決すること、そしてリポジトリへの新しい技術を導入をサポートすることを目的に活動します。今年度の主な活動予定は以下のとおりです。

リポジトリ担当の方もシステムに関することは難しいと敬遠しがちかもしれませんが。技術 WG では、「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをわかりやすく」を心がけて活動し、皆さまのお役にたてればと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今年度の主な予定

- ・海外のリポジトリ技術に関する情報を翻訳して DRF のメーリングリストでお届けします。
- ・SCPJ, ROAT, 著者識別子、技術 WS 等、主に技術に関するイベントのサポートや実施部隊として活動します。
- ・JaLC がリポジトリコンテンツに DOI を付与する仕組みを調査、整備します。

DRF の広報部門は、これまでおもに月刊 DRF 編集部がその役割を担っていましたが、今年度から新たに広報ワーキンググループとしてスタートし、その活動範囲を拡大します。広報 WG では、本誌「月刊 DRF」の企画編集をパワーアップさせるとともに、DRF および IR の存在意義を内外に示すための「あてこのてそのて」を、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

広報WG

主査：尾崎文代 (広島大学)

最近知り得たコトバに「AISAS の法則」 "Attention、Interest、Search、Action、Share" というのがありまして (すぐ使ってみる ^^)、消費者行動の心理に沿った広告理論なのだそうですが、DRF の広報にも、これをがつつり活かしていけたらなあと思います。Attention から Share!



副査：阿部潤也 (東京歯科大学)

これまでの月刊 DRF 編集作業を通じて、新しく学ぶことが多々ありました。今後も読者の皆様と一緒に学べる月刊 DRF でありたいと願っておりますので、原稿依頼が舞い込んだ際は (心の中ではそうではないかもしれませんが)、気持ちよく引き受けてくれますとありがたいです。



技術サポートWG



主査：大園隼彦 (岡山大学)

技術WGの主査ですが職場の担当は目録です。リポジトリを担当していない身ですが、興味を持ち続けてさえいればどうにかなるものと考えています。この活動を通してみなさんと一緒に成長できればと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。



副査：橋洋平 (金沢大学)

今年度、副査を担当することになりました。2006年、金沢大 KURA を立ち上げた後、約3年間リポジトリ担当でしたが、当時から技術についてはよく理解していませんでした。「そういう私でも理解できる内容」になるよう、皆さんと一緒に活動していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

編集後記

DRF 広報 WG では、より新鮮で役に立つ誌面作りのために、月刊 DRF の記事内容に関するご意見・ご要望をお聞きする読者アンケートを実施しています。ご協力よろしくお願いいたします。 http://drf.lib.hokudai.ac.jp/gekkandrf_inq.html

次号予告 COAR 総会レポートほか

月刊 DRF 第 28 号 平成 24 年 5 月 1 日発行 デジタルリポジトリ連合 <http://drf.lib.hokudai.ac.jp/gekkandrf/> ●月刊 DRF では、みなさまのお便りをお待ちしております。 gekkandrf@gmail.com